



全国の対話と物議の土壌をかもすニュースをお届けします

かもす通信

はたらく女性の全国センター（ACW2）



特集

「はたらく女性の分断」に橋を架けるプロセスワーク合宿



もくじ

特集「はたらく女性の分断」に橋を架けるプロセスワーク/ワークショップ 宿泊研修 報告レポート……………p2	大会のお知らせ…………… p16
相談員トレーニングを終了して……………p9	ACW2の財政が危機です!! あなたの力が必要です… p17
地球の裏側から届きました! 入会のおたより…………… p10	編集後記…………… p18
ホームヘルパー国家賠償訴訟 東京地裁 提訴 …… p12	「不安さんとわたし」…………… p19
	4コマまんが…………… p20

「はたらく女性の分断」に橋を架ける プロセスワーク/ワークショップ

ACW2@海辺の宿泊研修 報告レポート

(2019年 公益財団法人草の根事業育成財団 助成事業)



ACW2の内外に存在する幅広い問題にアプローチし、相互理解を深めることを目的に、宿泊研修を行った。社会の土壌を変えるためには、賃労働・家事・育児・介護・自他のケアを抱え、1人ひとり困難を抱えている私たちには、何よりも仲間と、信頼関係が必要だ。日常をしばし離れたワークショップを通して、分断を乗り越え、共同の力で、社会を変革する活動を持続するきっかけにしたいと考えた。参加者は約20名。

日時 | 2019年10月26日(土) 13:30～ 27日(日) 17:30 (1泊2日)

場所 | 民宿はら (神奈川県三浦市)

講師 | Daya(武田美亜) プロセスワーカー/ 葛藤解決ファシリテーター

参加費 | A: 13,000円 B: 16,000円 C: 21,000円 の3種から自己申告で選択制とした。

(宿泊、夕食、朝食、昼食、会場費込み)

プログラム

1日目 13:30-21:00 お魚ざんまいの夕食とお風呂

◎自己紹介、講義、用語解説など

◎ACW2内の葛藤や分断をテーマに各自で問題意識を出していくワークショップ

2日目 7:00-17:30

◎朝のダイナミック瞑想、海岸さんぽなど

◎ランクについて気づくワークショップ

◎課題解決のワークショップ

研修を実施した結果として、私たちの活動が生み出してきた(いる)価値を共有し、持続していくために必要な課題が、財政問題を含めて明確になった。価値を過小評価せず、支払いが困難な仲間を排除しない形で、正当な対価を付与していくということが合意され、仕事を分け合っていこうという土壌が形成されたと考える。

「acw2のこれからをプロセスワークとともに考える」

きなこ

プロセスワーク・ワークショップの2日間は、とても濃密な時間でした。

普段、こんな状態の自分ではダメだと思うことが多い私ですが、ワークを通して、この私のまま参加していてもいいのだ、と自分を肯定しようと思えました。

初めて体験する様々なワーク、海のすぐ近くで空気も良く、ごはんもとても美味しく、参加者の皆さんと沢山話し……もちろん、これからの acw2 に何が出来るかということ、沢山話し合い、自分でも考えました。

acw2 の活動や運営に何らかに参加したいと思っても、事務所まで遠いことや、体力的に普段の仕事だけでいっぱい毎日の毎日です。そういう理由より何よりも、「自分には出来るはずかない」という思いが一番行動を妨げているのかも、とも思います。

色々できないことをあげたらキリがないですが、これからの acw2 のために私ができることを探していきたいです。

プロセスワーク 合宿参加してよかった

たかぎ

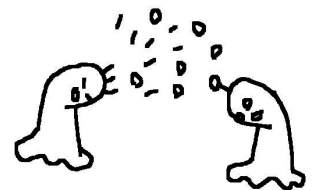
参加してよかった!!

インナーワークがよかったです。合っていた感じ。

ダイナミック瞑想は、体力のなさを痛感しました。

「エッジ」は、無意識の葛藤に自分でも気づきやすくて、自己理解に役立つと思いました。たくさんプロセスワークのキーワードとかを教わったので、もう一度自分の中で反芻してみて、より自分のものにしたいと思っています。

自分の頭の中の一部が整理された感じがしています。もっとプロセスワークについて学びたくなりました。



感想

伊藤みどり

何よりも、プロセスワークは洗脳ではないよね。という体感を合宿参加者で味わえたことが最大の喜びだった。さざ波のように伝わっていくことができると思う。丁度良いタイミングでした。DayaさんをACW2で呼べればいいなと強く思い続けてよかった。

これから、学んだことを忘れずに実行したい。一番疲れると思い込んで回避しようとしていた、お金と事務仕事の必要性を色んな声で取り組めてよかった。先人も苦勞してきたところの打開の方向性が見えてきた。困難な課題をガチに取り組める仲間の力に心から感謝したい。Dayaさん本当にうれしかったです。

そして、12時間近い長丁場をまったく疲弊せずに、暗くなるまでやり遂げ楽しく学べた仲間たちの存在が一番うれしかった。自分の特権を発見し祝福できれば疲れのないだね。

インナーワークや瞑想も取り入れる意味もよく分かった。私はもっともっと必要なので意識的に増やしたい。

ひとりでできないことがあるから

佐野ひびき

人と関わることに躊躇しては、様々な属性や価値観を持つ人が、互いの違いを尊重する社会を作っていくなんてできないと思い、合宿に参加しました。

合宿中、対立し感情が高まった二人をDayaさんが向き合わせ、自分の気持ちとその理由を互いに言えるよう問いかけ、促す様子を見ました。その対話によって、当の二人だけでなく、まわりにいる人も理解が深まったことに驚きました。これが私の求めているものだとわかりましたが、では、いったい私は何をしたら…？ 自分の体に意識を向け、思うままに動くインナーワークでは、こんな言葉が自分から出てきました。「流れを止めなくていい、風に体を任せればいいじゃん」「抵抗するから倒れるんだよ。でも、嵐がきたら倒れるのは仕方がないよね」。誰かと比べず自分のペースで、私なりの関わり方を試行錯誤するしかないと諦念しました。うまくいかないことも正解なのかも。何でも一人でできたら、誰かと一緒にやる必要がないし。

「よいきっかけ」

ゆう

ダヤさんのワークショップを初めて受けました。

私は元々左脳人間で、とにかくロジカルに思考することがカッコイイと思って人生の大半を生きてきましたが、ここ数年もっと創造的に生きたい、人にどう思われるかではなく、自分が自分に対してリスペクトできる納得できる生き方をしたいと何処かで考えていました。

そんな矢先にダヤさんのワークショップをすすめていただいて、チャンスに恵まれました。

潜在意識に語りかけるやり方はとても今の私には合っていたみたいで、自分の中の武装解除にとっても良かったと思います。

明日死ぬとしたらどんなふうに住きたいか

そんな事を最近よく考えていましたが、

今を大切に、今を楽しみ、

自分で自分を許して生きれる様になっていけるといいなあと

ワークを受けて思いました

年齢を重ねて

ますます人生が楽しくなってきました(。^。)



働く女性の全国センター主催のワークショップ @海辺の宿泊研修に参加した

花一子

瞑想とかプロセスワークとか、スピチュアル嫌いな私は当初訝しんでいた。

しかし大好きで信頼できる仲間達と一泊できる機会はなかなか無いので、すぐに申し込んだ。特別な時だけ使うハそくりを引っ張り出した。

午前中に子どもの用事があったため、13時の駅集合に間に合わなかった。タクシーを使って20分遅れで宿に到着し参加した。

始めはルールや用語解説、自己紹介など座学だったのでギリギリ追いつけたと思う。

その後あまり知らない人同士で3人グループを作り、ACW2でやりたいこと、難しい事を各自ポストイットに書き発表する。一人10分。

全員が大広間に集まり、大きな模造紙にポストイットを貼っていく。問題を可視化し、共有する。リーダーに負担が集中し過ぎているのに、周りは好き勝手言って分断が起きている。

会費と寄付金のみで運営しているため、家賃を支払うのがやっつとで、全員ボランティアなこと。大別するとこの問題から様々な困難が派生していることがわかった。議論が尽きぬため、夕食時間が大幅に遅れてしまった。

夕食は伊勢海老や鯛の舟盛りから、焼き物、煮物、揚げ物、漁師の民宿だからこそ味わえる豪華さ。酒は飲まない。



夕食後は身体感覚からつながるインナーワーク。いよいよ瞑想に入っていく。

私は感覚過敏なので、臭いや音が気になって深く入れないのではないかと不安だったが、優秀なファシリテーターの導きで、深く入っていった。

今悩んでいる自分を高いところから見降ろした。毎日独りで不安の中、いっぱいいっぱいになって追い詰められている自分が見えた。

その瞬間、涙がどっと溢れ出し、嗚咽が止まらなくなった。自分がかawaiiそうで不憫で仕方な

かった。

私は今まで自分の事で泣けなかった。どんなにカウンセリングを受けてさらけ出しても、「大変ですね。」と言われても、他人のこのように感情と結びつけられなかった。それが、今自分に対して泣けている。



「ちょっとは休みなよ。一人になれる時間を作りなよ。」

と自分に言ってあげた。とても安全で温かく、気持ち良かった。

ワークショップは22時まで続いた。入浴時間が23時までで、二、三人づつしか入れなかったため、今日は断念する組と大急ぎで入る組とに素早く別れた。

こういう時「えー、私はいいよー。(本当は入りたいけど)」などの女性のありがちな面倒くささ、時間の無駄がないところが、この仲間の素晴らしいところだと思う。

結局、夜中まで話し合っていた。

2日目、7時から朝食だったので、皆5時過ぎから起き出して入浴や支度を始めた。平均年齢は高いのに、恐ろしくタフでパワフルだ。希望者のみダイナミック瞑想をする予定だったが、当然のように全員参加。これは本当にダイナミックだった。

獣のように踵で大地を踏みならし、大声で吼え、四肢を振り回し、踊る。

世界中の先住民の祈りの舞や、護摩を焚いてトランスする宗教行事みたいなアレである。

真似事じゃない。本当にアレを現代人がやれるのだ。薬や酒の力も借りないで。そして圧倒的で感動的な開放感。

前日自分のために泣いてから、心が柔らかくなって、スポンジのように感覚を吸収できるようになったようだ。また号泣してしまった。終わった後、皆で感想を話し合ってるときも、一人一人の葛藤や痛みに共感していちいち泣いてしまう。

その後昼食まで、ACW2内で抱えている葛藤を実際のロールモデルで観察した。

ロールモデルが発言する度に、共感してしまい、泣きっぱなしだった。

昼食後は新たなワーク、自分のランクを検討して意識する。

人は自分の相対的ランク(上下)に伴う特権には無自覚で、相手の高いランクにばかり注目して傷つけることがある。

ランクが高いとは、例えば「手足が動く」とか「毎日食べることができる」とか「雨風凌げる家がある」とか当たり前のように思っていることでも世界中の人から見れば恵まれていることだ。

二人一組になり、相手のランクを気付かせる。(具体的に褒め合う)一人 10 分。

自分で思っているランクと、人から見られているランクが随分違うことに気付く。

私はいつも疲れていて、人間不信で、貧乏で、惨めな人だと見られていると思っていた。

しかし相手から言われたランクは「元気そう」「声がよく通って、周囲が明るくなる文脈で話すことができる」「自己開示ができて自分や他人を信頼できている」「行動力がある」など、別人のような評価をもらった。

だが、私の一番の問題点「自分のパワーを使って他人を動かそうとする。できないとすぐに対話のシャッターを下ろしてしまう。」ことをファシリテーターに指摘されたときは、あまりの的確さに声を失ってしまった。

思い当たりがありすぎる。もう泣きじゃくってしまった。

最後に全員で発表して、一言ずつ感想を言って終わった。



17時半終了の予定が 18 時を過ぎていた。

これだけの時間を共有して、結束を強め、葛藤を解決して、感謝しあって、あっさり帰途につく仲間達。

共感能力が高く、優しく敏感で慎ましく、第一線の現場で闘ってきたフェミニスト達。

皆真剣で積極的でここに一緒に居られたことを誇りに思う。

そして私達を導いて下さった Daya さん。大好き。これからもよろしくね。

相談員トレーニングを終了して (アンケートより)

相談員トレーニングとは、相談する側も相談される側も共にエンパワーされる支援をめざして開催されているものです。2019年度1月～10月の全10回を終了しました。

相談員トレーニングの目的

前半は、労働法の知識をコンパクトにポイントに絞って学べます。

担当は、働く女性の全国センター運営委員の伊藤みどりです。

後半は、人の話を良く聴くトレーニングです。ただ話を聴くだけではなく

自分と向き合い、率直に応答すること等を学んでいきます。

担当は、カウンセリング&サポートサービスN カウンセラーの高山直子です。

大変人気の講座で、来年度の募集はもう定員いっぱいになり締め切ってしまいました。

今回講座を受けた方の感想を聞いて、ぜひ再来年度の申し込みをお待ちしております。



▶ 1カ月に1回、軽10回のペースが良かった。グループワークを通して学べたことが良かった。

“豆知識編”では、事例を通して、交渉・解決など現実面の厳しさも視野に入れて相談者をサポートしていく姿勢を大事にしていることが分かった。情報提供に徹する姿勢が良かった。

“カウンセリング編”ではさまざまな気づきを得た。言語化や向き合い方についてヒントを沢山もらった。“慣れから感覚が鈍くなる”のを防ぐためにくり返しのトレーニングは大事だと思った。
(60代、パート・アルバイト)

▶ 国家資格キャリアコンサルタントの更新のために必要な技能研修よりも、今の私にとっては役に立つ、と思えた内容でした。特に“genuineness”と“non-judgmental”の2つは、常に立ち戻るべき姿勢であると、講義、ロールプレイ、話し合いの中でたたくこまれた想いです。ありがとうございました。
(60代、団体職員)

地球の裏側から届きました! 入会のおたより

今の私は、『82年キム・ジヨン』そのまんまです

by 城本たまみ

はじめまして。今、定職に就ける見通しがついていないため、会員申し込みは最小の1口2000円で申し込みさせていただきました。いつか安定して働けるようになって支える側にまわれるような収入を得られたときに還元させていただきますので、当面ご容赦ください。

私は最初に勤めた商社の営業職以外は、ずっと国際協力分野で非正規の雇用契約で仕事をしてきました。日本で契約し海外で働くという状態でしたが、当初は、非正規という制度でも働きたいときに働きたい場所で働ける、柔軟な制度だとポジティブに考えていました。しかし、最後にとある国際協力機関のラテンアメリカ事務所で勤務していた時には多忙で残業も多く、過労死寸前の働き方で、このような持続不可能な働き方に疑問を持つようになりました。子どもも欲しいと思っていたので余計不安でした。そもそもストレスで子どももできないのではありませんか、と心配でしたが、妊娠が分かり喜んだのもつかの間、仕事との両立への不安は的中で、結局、雇止めに遭いました。そもそも契約形態も、事務所の一員として職員と同じように所長からの指示で働いていたのに、「業務委託契約」で何の保障もありません。出産後5日で契約が切れるのと同時に無職になりました。2017年のことです。偽装請負の疑いが濃厚ですし、残業代未払いもありました。何よりマタハラにあたるかと考え、弁護士にも相談し裁判も考えましたが、結局、自分の人生を立て直すことを優先したい思いもあり、裁判はしませんでした。

雇止めからもうすぐ3年がたちますが、精神的な不調もあり以前ほどストレスにも強くなく、これからどうやって生きていくか不安しかありません。フェミニズムに出会ったおかげで、これまで私が単なる名誉男性として男並みの仕事で男社会に溶け込んでいただけで、それ自体無理があったのだ、と気づけたのは幸いでした。しかし、女性差別が蔓延する社会を変えるのは

やりがい搾取は、もう御免! 訪問介護は労基法無法地帯

～ホームヘルパーの乱～



11月1日、藤原るかさん、佐藤昌子さん、そして伊藤みどりの登録型ホームヘルパー3人が東京地裁に国家賠償請求訴訟を起こしました。今回の掲載は佐藤昌子さんの自己紹介です。この裁判は、介護保険の危機に対してやむを得ず提訴したものです。裁判には、お金も人も必要です。傍聴を今後ホームページなどでも呼びかけますので、よろしくお願いします。

訴状概要と訴状については、ACW2のホームページからダウンロードできます。

<http://wwt.acw2.org/?p=4890>

当事者 佐藤昌子さんの自己紹介

1. ヘルパーになった理由

私は、全国一般福島連帯ユニオンの組合員です。

2010年、地元で、特別養護老人ホームを雇止め解雇された非正規介護労働者の裁判を支援しました。原告は、コミュニケーションを重視し、「おむつ交換3分」などの画一的介護に抵抗したことが、「能力不足」とみなされ雇止めされました。効率追求の介護で、人の尊厳が無視されている現状や、多くの離職者を生む労働環境の劣悪さを知り、自らのこととして介護問題に取り組むようになりました。

2012年、裁判を支援した労働組合や有志が中心となり、「人に寄り添う介護」を目指し「NPO法人ふくしま共生センター」、訪問介護事業所「いきいきケアセンター」を設立し現在に至っています。私は、60歳の定年退職後に介護の資格を取り、ヘルパー（訪問介護）の仕事に就きました。

2. 介護保険が介護を破壊

2000年3月17日老計10号（厚生省老人福祉計画課課長通知）で、仕事の細分化と効率性、生産性が求められました。訪問回数は、ケアプランや支給限度額で決まり、定型化した業務をいかに時間内に終わらせるかを求めたものです。

「人が人を見る」とは、関係性の上に成り立つことです。単価計算で組み立てられた「介護保険サービス」は、物（商品）の提供による報酬という考え方であり「人と人の関係性」を阻むものです。介護保険は、介護を破壊します。利用者にとっても不幸なことです。「人を見る介護」は、経験による知識が重要なのに、物（商品）を提供するだけであり、その対価としての報酬しか支払われない制度（介護保険）は、人が人として働けない環境を人為的に作っており、人権を無視した悪法です。

言語障害を持つ方も多く、人に人として寄り添うための傾聴も、身体状況に応じた丁寧なケアも、サービス残業の温床となり、「介護保険法」は、労働基準法を遵守出来ない法律です。

3. ヘルパー不足

ヘルパー不足は最も深刻な問題です。拘束時間は長いのに、移動時間と待機時間のある出来高払いのため、介護労働者の中で最も低賃金で、月ごとのシフトで勤務が決まる為、収入も安定しません。零細中規模事業所では、人手不足で休暇が取りづらい状況が起きています。休みが出るとシフトを埋めるために、サービス提供責任者や特定のヘルパーがケアに入ることになり、過剰な負担を強います。月に一度の休みも取れないこともあります。

地域包括ケアの推進で、病院を出て在宅ケアに移る方が増えており、事業所にもケアの依頼が入ってきますが、ヘルパー不足で依頼を受けることが困難です。

ヘルパーの増員は、「介護の価値」が正当に評価され、ヘルパーの人権と、真っ当に生活で

きる賃金が保証されてこそ成しえることです。介護を「社会保障」とするなら、介護保険に人件費を上乗せするのでは無く、国費を増額すべきです。

4. 地方の問題、休業手当

04年8月、労働基準局から「訪問介護労働者の法定労働時間の確保」が通達され、移動費と休業手当が盛り込まれました。

介護保険では介護報酬に地域区分があり、1から7級地に分類され、同じサービスでも報酬単価が違います。福島は級地にも入らない、「その他」に分類され、報酬単価が最低です。地方は人口密度が小さく、事業所もヘルパーの人数も少ないため、広いエリアをカバーするため、ほとんどのヘルパーが自家用車で移動します。片道30分、1時間の移動もあります。私の働いている事業所では、ガソリン代が1キロ20円、移動費が1キロ30円支払われていますが、介護報酬には、ガソリン代も移動費も含まれていません。すべてが事業所負担のため、支給しない事業所もあります。冬は積雪や凍結で移動に時間を要します。利用者宅の雪かきも無償です。待機、移動費の問題は、ヘルパーの賃金を左右する大きな要因です。

また、利用者の長期入院も不安定賃金の大きな要因になっています。私の担当する方も、現在一人が入院、一人が水害で被災しキャンセル状態です。長期入院が3名重なったこともあります。休業手当はありません。職員の要望に対し、「出してあげたいが、出来高払いのため、支払うと経営が立ちいかなくなる」が、事業所の回答でした。国が、通達の前原資をどこに想定しているのか不明です。

5. 最後に

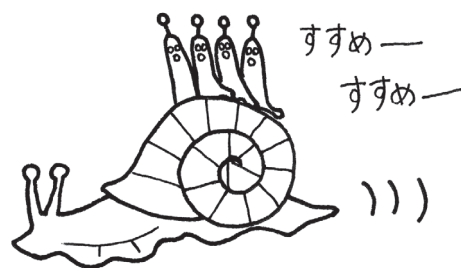
忘れられない言葉があります。「自分では死ねないから、国と行政が私を殺してくれるならそれでもいい」と、話された方がいました。一緒に泣きました。10代で発病され、幾つもの障害を抱えた方でした。65歳になると「障害」から無条件に「介護保険」に移行し、多くの場合時間数が減ります。その方は、昨年65歳になり〈要支援〉で介護保険に移行。ケアの回数が増えました。実情に合わないため介護保険の区分変更を依頼し〈要介護2〉に変更されましたが、それでも不足でした。食事が十分でないと体力も低下します。更に区分変更をお願いし

ましたがなかなか進まず、結局、自力での歩行・食事が出来なくなり、転倒を繰り返し入院、自宅には戻れなくなりました。このようなケースは稀ではなく、ケアに入った時の食事は召し上がって頂けても、その他の食事は、冷蔵庫・レンジ・テーブル等に置いてくるようになります。排便も薬でコントロールするため、下痢の場合、身体をきれいにし、掃除、予洗い・洗濯と更に時間がかかります。ひとくくりに、身体、生活援助と分ける事は不可能です。

痛みを訴える方の体をさすることも生活援助には入っていませんが、それだけのことで「楽になった」と嬉しそうに言っていただけます。ヘルパーは、それが嬉しいのです。

最近癌だった兄を、在宅のまま看取りました。介護保険で謳っている「住み慣れた我が家で最後まで」が、いかに詭弁であるかがよく分かりました。訪問看護、介護では、限られた時間しかカバー出来ないため、間違いなく家族の対応が必要です。義理の姉と私が休暇を取り介護しましたが、介護が長期化すれば介護離職は間違いなく起きます。入院も出来ないのに、家族のいない方のことは、想定されていないかのようです。

在宅介護が、介護保険の柱とされているのに、実態はあまり明らかにされていません。介護保険そのものが難解です。私はヘルパーとしてはまだまだ未熟ですが、やりがいを持って仕事に臨みたいと思っています。この裁判を通し、在宅介護の労働現場で労働基準法が守られるようになり、ヘルパーの人権と、やりがいに繋がり、新しい仲間が増えることを心から願っています。



裁判日程が決まりました。

第1回裁判 2020年1月20日(月)14時から 東京地裁 803号法廷 傍聴をお願いします。

以上

大会のお知らせ

RE:「私」をつないで帆を上げよう 互いに生きのびられるACW2へ

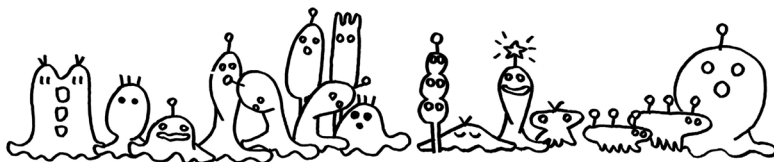
パラレルワークやギグエコノミーという言葉に代表されるような、“柔軟な働き方”に注目が集まっています。しかしその実態はどうなのか？

ACW2では2018～19年にかけて「仕事かけもち調査」を実施しました。

そこから浮き彫りになったのは、一つの仕事では生活できないため複数の仕事をかけもちせざるを得ない副業の実態でした。

大会では「仕事かけもち調査」について報告するほか、実際につぎはぎで働いている女たちの実態を介護や非正規公務員、セックスワークの現場から報告いたします。

奮ってご参加ください。



大会プログラム(予定)

2020/2/15(土)

- | | | |
|--------|---|-------------------------------|
| 13:30～ | パネルディスカッション「パラレルキャリアの闇～女性の貧困を解剖する～」
ACW2副業のアンケート報告、介護労働ゼロ時間契約、公務非正規職、セックスワークなど予定 | センター棟 405号室(80人室) |
| 18:00～ | 分科会 「性と自分を話す会」、「介護の会」、「非正規シングルの会」、「非正規公務の会」など? | センター棟 405号室(80人室)／センター棟(20人室) |
- 現在、企画募集中です!! お気軽にご相談ください。
-

2020/2/16(日)

- | | | |
|-------------|------------|-------------------|
| 9:30～12:00 | 映画会(未定 予定) | センター棟 304号室(80人室) |
| 13:30～15:00 | 総会 | センター棟 305号室(20人室) |
-

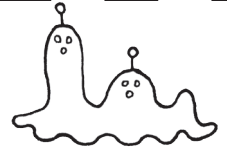
場所 | 青少年オリンピックセンター

参加費 | 1日あたり 会員500円／非会員2000円 宿泊費 | 4000円

宿泊の方は必ずoffice@acw2.orgまでお申し込みください。宿泊されない方は、当日参加も大歓迎ですが、人数把握のために申し込んでいただくと助かります。

ACW2の財政が危機です!! あなたの力が必要です

はったり



ACW2 はこれまで、若者や非正規で働く女性たち、または生活するだけでも余裕のない人たちが相談できる場所になりたいと願い、ホットラインを無料にすることにつとめてきました。

しかしいま ACW2 は、毎月の支払いにも困る状況にあります。

ホットラインだけでなく、事務所を維持できるかどうか心配しています。

今まで様々な方々の援助があったおかげで、一口 2000 円の会費でなんとか運営してきました。

しかし結成当時、現役であった先輩たちのリタイアに伴う退会などが響き、会費回収率は 100% を超えているにもかかわらず、苦しい状況が続いています。

それに加え消費税の増税があったため、会費の値上げを議論せざるをえませんでした。

小さくてもたくさんの力を合わせれば、大きな力になります。いっしょに支えてくれる人になってください。また、これからどうしたらいいかアイデアが浮かんだ方は、

▷ office@acw2.org まで、ぜひご連絡ください!!

私は約 20 年前に女性ユニオンから始まり、ACW2 結成時からのメンバーです。

人生山あり谷ありで、たくさんの NPO や団体を渡り歩いて ACW2 にはほとんど関わらない時期もありました。ある日久しぶりに顔を出すと、まるで空白の期間など無かったように飾り気のない自分を取り戻すことができました。ここは自分の軸を持ち、勇敢で優しく尊敬できる仲間がいる唯一無二の居場所です。ここを失くしたくない。子どもたちに、夢と希望が持てる社会を残してあげたい。そう思って活動しています。誰かにおもねることはしたくないので、スポンサーはつけていません。全員ボランティアで活動してきました。しかし今そのともじびが消えかかっています。とても悲しいです。もし「こんな活動があっても面白いんじゃない?」と思って下さるなら、少しでも寄付して頂けませんか? 一口 2000 円、もちろん何口でも結構です。500 円でも 1000 円でもとてもうれしいです。心からお願い致します。

花一子

寄付をして頂ける方は、下記の口座へお振込ください!

郵便
振込

00130-1-669637

銀行
口座

三井住友銀行 渋谷支店 普通8658522

編集後記

▶ 今回のかもす通信はプロセスワーク合宿に集まったメンバーとやりました。いつもは運営委員だけでやっている作業なのですが、会員の佐野さん、花一子さんとの作業です。運営委員じゃないとできないと思っていたことも案外できてしまうものだなあと思いました。こうやって、いろんな作業の分担が進むとよいと思います。 (ナガノ)

▶ 初めて編集作業に入らせて頂きました。「Skype ってすごーい！」とカルチャーショックでした。こんな文明の利器があるなら、遠方の人もどんどん参加できるなあ。会員の皆さまとお話ししたり、作業したりできたらいいなあ。と思いました。 (花一子)

▶ ACW2 で私に何ができるかなあと考えたとき、私は組版ソフトを使えるではないか！ レイアウトならできると、かもす通信の制作に手をあげました。でも私は編集が苦手なので、一抹の不安を感じたのですが、既に全体構成はできてたし、ナガノさん、花一子さん、私の3人で打ち合わせをしたら、アイディアは出るし、わからないことは尋ねりゃいいしで、できちゃいました。合宿や対話の土壌をかもすワークショップに参加してきたおかげだな。(佐野)



お知らせ

メーリングリストの以降作業に伴い、ACW2からのメールが届かない場合は

office@acw2.org

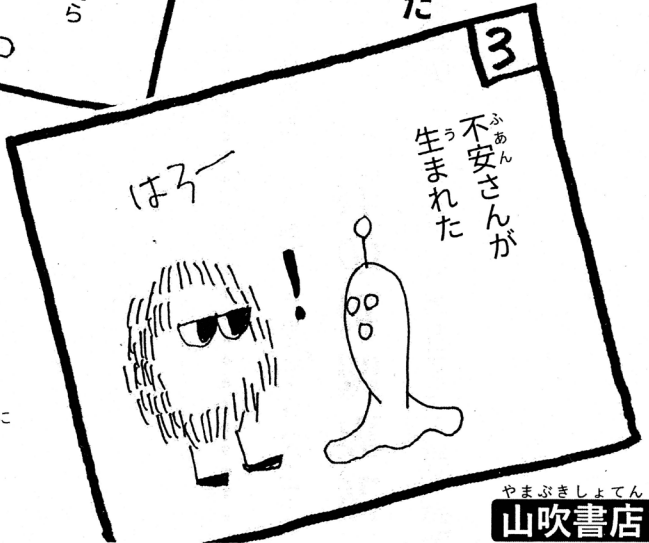
までご一報ください。

ふ あん そう 総ルビつき **8月5日発売!!**
不安さんとわたし

ナガノハル 著

**当事者研究的
コミックエッセイ**

うつになやむ著者が、
 とほうにくれたり、恐れったり、怒ったり、
 コントロールしようとしたり、格闘したり、
 祈ったり：
 不安さんとのたたかいたいと愛の日々を描いた



- 第1章 生まれた
- 第2章 可能性の館
- 第3章 村の人びと
- 第4章 恐れ/コントロール① 準備する
- 第5章 恐れ/コントロール② 不安プロジェクト
- 第6章 愛
- 第7章 いつも、そばにいたよ
- 第8章 習慣
- 第9章 祈る

◎著者 ナガノハル
 1979年、神奈川県生まれ。
 双極性障害Ⅱ型という障害をかかえながら、日々の苦勞をまんがに
 することをライフワークとしている。

ISBN 978-4-86538-094-1 C0095 定価=1,580円+税

取次ぎ番線/コード印	ご注文数	ご担当者様名
注文・返品条件付		冊

不安さんとわたし

ナガノハル 著

発行=山吹書店 発売=JRC 定価=1,580円+税 ISBN 978-4-86538-094-1

○本書はJRC 経由で、どの取次にもお入れできます。

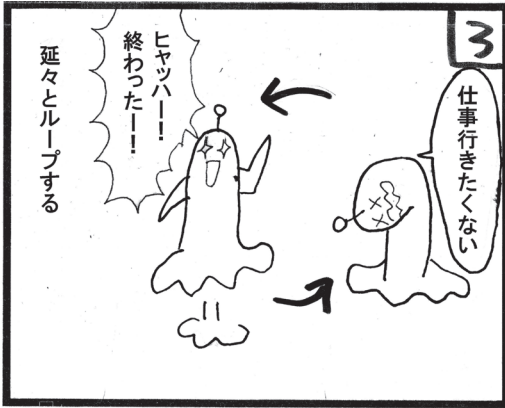
お申込み FAX: **03-3294-2177 (JRC)**

東京都千代田区神田神保町 1-34 風間ビル 1F

TEL: 03-5283-2230 E-MAIL: info@jrc-book.com

○この本に関するその他のお問い合わせ先 TEL: 0422-26-6604 (山吹書店)

やまぶきしよてん
山吹書店



働く女性の全国ホットライン 0120-787-956

5・10・15・20・25・30日 平日 | 18:00~21:00 土日祝日 | 14:00~17:00

会員のあなたもぜひご利用ください。毎月5日はセクハラ集中相談日

住所 | 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階

TEL | 03-6803-0796 FAX | 03-6803-0726 e-mail | office@acw2.org

HP | <http://www.acw2.org/> Twitter | <https://twitter.com/acw2org>

正会員年会費 | (性自認女性) 1口 2,000円 3,000円 5,000円 10,000円

生活困窮者 1,000円

通信/サポート会員 | (男性歓迎) 1口 2,000円 (何口でも可)

郵便振込 | 00130-1-669637

銀行口座 | 三井住友銀行 渋谷支店 普通8658522

感想・あなたの原稿など
お待ちしております。
「かもす通信」係まで
お寄せください。

